

学校だより

大津市立葛川小・中学校

平成26年7月号

1学期の終わりに寄せて



新入生を迎え、新しい先生や友だちとの勉強や遊びが始まり、子どもたちの毎日が大きく変化した4月。学習面では、たくさんの体験活動を通して、地域の多くの方々にお世話

になり、学びを深めていきました。人とのかかわりの中で学んだことからは、単なる知識の積み重ねを超え、子どもたちにきっと知恵を授けてくれたに違いありません。また、校外学習や修学旅行では、市外や県外にも出て行き、生活空間を一気に大きく広げました。まさしく未知との遭遇(?)。まもなく、1学期が終わりますが、4月に比べ、どの子どもも身体がひと回り大きくなり、できることが増え、集中する時間が長くなり、人と話をする時の表情や言葉遣い、内容などすべてがたくましさを感じるこの頃です。この調子で、すすくと2学期、3学期を邁進してほしいと思っています。そのためには、夏休みは健康的で規則正しい生活をするのが大事であることを疑う人は誰もいません。小学生の諸君は、良く学びよく遊ぶ。中学生の諸君は、よく学び良く鍛える。2学期には、元気な姿を見せてください。

むし歯のない子どもたち



歯科校医の奥村先生から「葛川小・中学校の生徒は、ひとりもむし歯がありません。とても素晴らしいことです。」と、お褒めの言葉をいただき、とてもうれしかったと同時に、

子どもたちのことを誇りに思いました。普段からのお家の方のご指導が実を結んだのでしょう。給食後の歯磨きでは、子どもたちは歯ブラシの持ち方や力の入れ具合、動かし方がとても上手で丁寧に磨いています。

さて、むし歯がないことはもちろん、歯肉、歯並びや色などを総合的に見て、最も健康な歯の持ち主(小6、中3)に送られる大津市健歯児童生徒に、小野拓真さんと岡田泰喜さんが選ばれました。おめでとうございます。お家の方に感謝して、これからも歯や歯肉を大切にしていってほしいと思います。

6月の歯の衛生週間にちなんで、「歯と口の健康を守るための指導」をしました。歯に見立てた卵の殻が酸(お酢)に溶けていく様子や歯垢の中の細菌が顕微鏡の中で動いている様子を子どもたちは、驚きの声を上げながら見ていました。(養護教諭による指導)

砂防ダム工事より学ぶ



学校から南側に約100mのところ、砂防ダムが出来上がりつつあります。先日7月9日(水)に株式会社「昭建」とNPO法人CESAの人たちが来られて、小中学生に砂防ダムについてお話をいただきました。「砂防ダム」は何のためにあるのでしょうか。ここ葛川では、近年、豪雨に見舞われることが増え、河川の増水はもとより、土砂災害の危険にさらされることが、現実のものとなっています。ちなみに、学校周辺にも「土砂災害警戒区域」に指定されている場所が何箇所もあり、大雨が降り始めると心穏やかではられません。

ところで、砂防ダムは、山肌を雨水と一緒に流れてくる土砂を食い止め、民家や道路への被害を食い止めるためのものです。一つの谷筋には大小いくつもの砂防ダムを作らねばなりません。完成までには、何年もかかり、費用も億を超える建設費がかかるそうです。学校の近くに砂防ダムがあるということで、自分たちの住んでいる地域の地形の環境を知り、災害に対する正しい知識と防災意識を高めていきたいと考えています。

地域清掃活動に取り組んで

先日7月2日(水)に小中学生全員で地域清掃に行きました。今年、葛川診療所付近と自然の家のキャンプファイヤー場の草引きをさせていただきました。日差し



のきつい日で、汗をかきながらの作業でしたが、時間いっぱい頑張りました。その時の生徒の感想を紹介します。

- ・げんのすけさんが、みぞにつまった草をぬいているのを見て、「がんばっているな。」と思いました。私はいっぱいがんばったので、きれいになりました。しぜん家のしよちょうさんがお礼をいってくれたのでとてもうれしかったです。

- ・今日は暑かった。竹のほうきで集めて、草も抜いたのできれいになったかなと思いました。小学生は石でコンクリートの間から草を抜いていて、結構きれいに取れていてびっくりしました。